

赤十字の誕生

赤十字は、1863年にスイスのジュネーブで誕生しました。これを最初に唱えたのは、スイス人のアンリー・デュナンです。

1859年6月24日、北イタリアのソルフェリーノを中心に、イタリア統一戦争がくりひろげられていました。このとき、一旅行者として戦場近くを通りかかったアンリー・デュナンは、うめき苦しむ負傷者を見過ごすことができず、敵味方の区別なく手当をしました。

戦いの後、デュナンは「ソルフェリーノの思い出」という1冊の本を書き、この中で「戦争に敵味方の区別なく救護する団体を組織できないだろうか」「そして、この救護団体を保護する国際的な協約を結べないだろうか」という二つの提案をしました。

このことが多くの人々の心を動かし、1863年2月ジュネーブにおいて「赤十字国際委員会」が誕生しました。

そして、その団体のしるしは、発祥地であるスイスに敬意を表して、スイスの国旗の色を逆にした「白地に赤十字」と決められました。

日本赤十字社の創立

1877年(明治10年)に西南の役がおこった際、元老院議官の佐野常氏は、同じく議官の大給恒と話し合い、同年5月1日、ヨーロッパ各国にある赤十字と同じような組織「博愛社」を創設し、敵味方の区別なく救護にあたりました。

その後、日本政府のジュネーブ条約加盟にともない1887年(明治20年)社名を「日本赤十字社」と改め、国際赤十字の仲間入りをしました。

